

氏名	村井美代	部署	健康開発学科	職名	准教授
研究分野	細菌学、細菌遺伝学				
学位	博士（医学）				
学歴	1984年お茶の水女子大学理学部生物学科卒業、1986年お茶の水女子大学大学院理学研究科修士課程修了				
経歴	1987年東京慈恵会医科大学医学部細菌学教室助手、1999年埼玉県立大学短期大学部衛生技術学科講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科准教授				
所属学会（役職）	日本細菌学会、日本臨床検査学教育学会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	Development of a Multiplex-PCR Serotyping Assay for Characterizing <i>Legionella pneumophila</i> Serogroups Based on the Diversity of Lipopolysaccharide Biosynthetic Loci.	共著	あり	○	Journal of Clinical Microbiology 59(11) e0015721	Nakaue, R., Qin, T., Morita, M., Ren, H., Chang, B., Murai, M., Amemura-Maekawa, J., Ohnishi, M.
2	Complete Genomic Sequence of the Clinical Isolate <i>Legionella pneumophila</i> Serogroup 1 Strain 80-045 from Japan.	共著	あり	○	Microbiology Resource Announcements 10(44) e0082221	Morita, M., Harada, N., Shinohara, Y., Murai, M., Ishii, N., Amemura-Maekawa, J., Akeda, Y
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	下水環境における黄色ブドウ球菌の分離とMRSAの経時的変動の解析	共同		第49回 埼玉県医学検査学会、さいたま市	安田理乃、西沢匠央、園田康雄、岸井 こずゑ、村井美代	2021年12月
2	埼玉県下環境由来および臨床由来ESBL産生Escherichia coliの分子疫学的解析	共同		第49回 埼玉県医学検査学会、さいたま市	山本美紅、村井美代、岸井こずゑ	2021年12月
3	環境由来ESBL産生Escherichia coliの分離率と遺伝子型に関する季節変動の検討	共同		第49回 埼玉県医学検査学会、さいたま市	有村春菜、山本美紅、大田原響、川西礼、島崎結奈、村井美代、岸井こずゑ	2021年12月
4	埼玉県内の下水から分離された黄色ブドウ球菌におけるMRSA率の調査	共同		第95回日本細菌学会総会、東京	○村井美代、岸井こずゑ	2022年3月
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			黄色ブドウ球菌の咽頭保菌の実態解明および口腔保健行動による除菌の検討	研究代表者	2018年4月～2022年3月
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			埼玉県内の臨床及び下水から分離したESBL産生大腸菌の解析	研究協力者	2021年4月～2025年3月
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	微生物学概論	○	7/7コマ	オリジナルのPowerPointスライドを用いて、人々の健康を支える微生物や、消毒・予防接種といった微生物感染症を制御するための基礎的知識についての講義動画をオンデマンド配信した。知識の定着を図るため、WebClassで確認問題に一定水準に達するまで取り組ませた。日々更新される新型コロナウイルスに関して、最新情報の科学的根拠を学生に伝えるように心がけた。		

2	分子細胞生物学	○	13/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを用いて細胞生物学および分子生物学の基礎を解説した。知識の定着を図るため、毎回、講義まとめプリントに記入させ、次回の授業はじめに答え合わせをした。
3	微生物学	○	15/15コマ	微生物学の基礎から感染機構まで解説したオリジナルの講義テキストに基づいた講義動画を作成し、オンデマンド配信した。知識の定着を図るため、毎回WebClassで確認問題に一定水準に達するまで取り組ませた。また、新型コロナウイルスに関して、最新情報の科学的根拠を学生に伝えるように心がけた。
4	臨床微生物学Ⅰ		2/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを作成し、真菌について1コマ対面講義、新型コロナウイルスについて最新情報のまとめを1コマ講義動画をオンデマンド配信した。知識の定着を図るため、一定水準に達するまでWebClassで確認問題に取り組ませた。
5	医療安全管理学		1/7コマ	医療関連施設における標準予防策および感染経路別予防策についてオリジナルのPowerPointスライドを用いて講義を行った。また臨地実習で実際に遭遇する感染対策についてクイズ形式で解説した。
6	医科学研究法		1/7コマ	微生物学分野で行っている卒業研究や教員研究について紹介し、身近なところにある研究テーマが、現在日本や世界中で取り組んでいる課題である薬剤耐性対策に発展することなどを紹介した講義動画をオンデマンド配信した。
7	細胞研究法	○	3/7コマ	生命科学分野の最先端の研究手法について、非常勤講師の研究室および理化学研究所横浜事業所からライブ中継で授業を受講した後を受け、それらの研究手法の応用により発展してきた検査技術ならびにこれから発展が予想される検査技術について受講者がまとめ、お互いに発表して質疑応答を行うアクティブラーニングを指導した。
8	病因病態検査学	○	3/15コマ	大学院博士前期課程の講義。病理学、血液学、免疫学、微生物学担当教員によるオムニバス講義。担当回は2コマで病原体検出のための遺伝子検査の基礎および利点と限界について解説したのち、1コマで学生に新型コロナウイルスの同定と遺伝子検査について調べた成果を発表させ、その場で評価をフィードバックした。

## (2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床微生物学Ⅱ		8/15コマ	培養期間が長い抗酸菌培養検査および染色検査、炭酸ガス培養や微好気培養などの特殊な培養環境が必要な細菌の培養検査の実技指導を、科目責任者と2名で担当した。
2	検査総合演習		2/15コマ	臨床微生物学分野の国家試験の出題傾向を解説し、まとめを自分で作成するための穴埋め表に取り組ませ、知識を整理させた。また国家試験過去問題に何度でも取り組めるよう、過去10年分の選抜問題に併せて覚えたい項目を解説に加えた約140問をWebClassにアップした。

## (3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		2021.9.	2施設、10人の学生を担当した。
2	微生物学実習	○	24/24コマ	オリジナルの実習テキストを作成して実施した。無菌操作、グラム染色などの基礎技術習得のため、一人一人に個別指導を行った。またグループワークとして一つの実験課題について4人ずつの班ごとに実験からレポート作成までを共同で取り組ませた。感染対策により半数の学生しか一度に実習できないため、正規時間割内のコマ数にプラスして春休みに3日間、午前午後に学生を分けて補講を行った。科目分担者と2名体制で担当した。
3	臨床微生物学実習		24/24コマ	グラム陽性球菌の混合検体および臨床検体を想定した異なる細菌を含む模擬検体を一人一人に配布し、自力で分離同定検査が進められるように指導した。科目責任者と2名体制で担当した。
4	臨地実習		2021.12~2022.3	施設担当として、1施設2名の学生の事前指導および登校日対応を行った。

5	遺伝子・染色体検査学実習		4/24コマ	感染症分野の遺伝子検査として、ESBL産生大腸菌の耐性遺伝子型別を、コロニーダイレクトPCRにより実施させ、遺伝子型による表現型の違いを確認させた。		
6	微生物遺伝学実習		7/15コマ	分離培養することなく検体から直接抽出したDNAを用いてPCRを行い薬剤耐性遺伝子を検出する方法について、講義動画をオンデマンドで視聴させた後、実際に自己検体を用いて実験させた。また過去の実習で行った電気泳動写真から薬剤耐性遺伝子の有無を判定させた。これにより、遺伝子検査の迅速性や利便性について理解を深めさせた。		
(4) 論文指導						
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
1	卒業論文	2021.4～2021.12	主指導	4名	副指導	一名
2	修士論文	2021.4～2023.3	主指導（指導教員）	一名	副指導（指導補助教員）	1名
(5) その他						
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	該当なし					
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研究会、公開講座等の講師						
	講演会、研究会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ			開催年月
1	該当なし					
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等						
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称			任期	
1	該当なし					
(3) ジャーナリズムでの発言						
	メディア等の名称	内容				年月
1	該当なし					
(4) その他						
	項目	相手方等	内容			期間
1	該当なし					
5. 学内運営						
	項目	内容				期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	教務委員				2021.4～2022.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験室部会（副部長）				2021.4～2022.3
3	学科等における委員会等	日本臨床検査学教育協議会・埼玉県立大学議決権者				2021.4～2022.3
4	大学広報活動	実習室紹介動画作成のためのパワーポイントファイル作成（一部）				2021.8
5	学生支援	3学年担任				2021.4～2022.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）						
	受賞名	主催			受賞年月	
1	該当なし					
7. 特許の取得						
	特許名	特許番号			登録年月	
1	該当なし					
8. 特記事項						
1	該当なし					